

News Release

2020年3月3日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2020 年 2 月 28 日に発表した英語のプレスリリース BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF、2019 年の業績を発表 川下分野の全事業セグメントで順調な推移を見せるも、特別項目控除前 営業利益は減少

- 売上高は 593 億ユーロ(前年比 2%減)
- ケミカル、マテリアル事業セグメントの減益が主因となり、特別項目控除前営業利益は 45 億ユーロに減少(前年比 28%減)
- 営業活動によるキャッシュフローは 75 億ユーロ(前年比 6%減)
フリー・キャッシュフローは 37 億ユーロ
- 2019 事業年度の配当金は 3.30 ユーロを提案(2018 年は 3.20 ユーロ)
- 2019 年第 4 四半期の売上高は微減(前年同期比 2%減)、特別項目控除前営業利益は大幅増(前年同期比 23%増)

2020 年の見通し:

- 売上高は 600 億から 630 億ユーロの範囲となる見通し
- 特別項目控除前営業利益は 42 億から 48 億ユーロの範囲となる見通し

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)はこのほど、2019 年の業績を発表しました。2019 年通年の売上高は、販売量の減少と販売価格の低下によって、前年比をわずかに下回り 593 億ユーロとなりました。特別項目控除前営業利益は、マテリアル事業セグメント、ケミカル事業セグメントの貢献が縮小したことにより、前年比で 17 億ユーロ減少して 45 億ユーロとなりました。

BASF 取締役会会長 Dr.マーティン・ブルーダーミュラーは、最高財務責任者の Dr.ハンス - ウルリッヒ・エンゲルとともに、2019 年年度報告書のプレゼンテーションで、「2019 年は世界経済の強い逆風を受けて、厳しい年でした。困難な状況が続きましたが、

BASF は上手く対応しました」と述べました。米国と中国の貿易摩擦によるマイナスの影響があり、主な販売市場の成長が停滞し、更に英国の EU 離脱をめぐる不確実要素が追い打ちをかけました。工業生産の成長率、化学品生産の成長率は予想を大幅に下回りました。主要な顧客市場、特に自動車セクターの需要は大幅減となりました。

「市場環境は厳しいものの、川下分野の全事業セグメントで増益となりました。残念ながら、それでも基礎化学品事業における減益を埋め合わせることはできませんでした」とブルーダーミュラーは述べています。マテリアル事業セグメント、ケミカル事業セグメントの特別項目控除前営業利益は 22 億ユーロ減の 18 億ユーロとなりました。イソシアネートの価格の急落、クラッカー製品の利益率の低下、クラッカーの定期修繕、全体的な需要低下が、これに大きなマイナスの影響を及ぼしました。

対照的に川下分野の全事業において、前年比で大幅な改善が見られました。インダストリアル・ソリューション事業セグメントでは、主に固定費の減少、為替のプラス効果、利益率の上昇により、二つの事業本部で共に特別項目控除前営業利益が大幅増となりました。サーフェステクノロジー事業セグメントでも同様に、特別項目控除前営業利益が大幅増となりました。ニュートリション&ケア事業セグメントでは、ケア・ケミカルズ事業本部の業績が好調であったことから、特別項目控除前営業利益が微増となりました。アグロソリューション事業セグメントでは、特別項目控除前営業利益が大幅増となりました。「バイエルから買収した資産、および事業の業績が非常に良好であり、増収増益に大きく貢献しました」とブルーダーミュラーは述べています。

2019 年、BASF グループの営業利益(EBIT)は 60 億ユーロから 41 億ユーロに減少しました。特別項目控除前 EBITDA は前年比 11%減の 82 億ユーロでした。EBITDA は前年の 90 億ユーロに対し、2019 年は 80 億ユーロでした。純利益は前年の 47 億ユーロから 84 億ユーロに増加しました。これには、DEA との合併後に Wintershall(ウィンターズハル)が連結対象外になったことによる、約 57 億ユーロの帳簿上の利益も含まれています。

2019 年第 4 四半期の BASF グループの売上高と利益成長

BASF グループの 2019 年第 4 四半期の売上高は、前年同期比 2%減の 147 億ユーロでした。販売量が 1%減少し、販売価格も 1%下落しました。製紙用薬品、水処理剤事業

を Solenis に事業譲渡したことによるポートフォリオ変更の影響がマイナス 1%見られました。わずかですが、売上高に対して為替のプラス効果が 1%見られました。

第 4 四半期の特別項目控除前営業利益は、前年同期比 23%増の 7 億 65 百万ユーロでした。これはアグロソリューション事業セグメント、ニュートリション & ケア事業セグメント、インダストリアル・ソリューション事業セグメント、サーフェステクノロジー事業セグメントにおいて大幅増益となったことによるものです。これらの事業セグメントが、第 4 四半期におけるケミカル事業セグメント、マテリアル事業セグメントにおける大幅減益を十分に埋め合わせました。

EBIT(営業利益)に含まれる特別項目は、前年同期のマイナス 1 億 51 百万ユーロに対し、マイナス 3 億 5 百万ユーロでした。「その他」に分類される事業およびインダストリアル・ソリューション事業セグメントでは、2019 年第 4 四半期に特別費用が発生しました。「その他」に分類される事業の特別費用は、エクセレンスプログラムの実施によるものです。インダストリアル・ソリューション事業セグメントは、BASF の顔料事業の売却により一時的な影響を受けました。第 4 四半期の EBIT は 2%減の 4 億 6 千万ユーロでした。

2019 年通年の BASF グループのキャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローは、前年比で 4 億 65 百万ユーロ減少し、75 億ユーロでした。投資活動のキャッシュフローについては前年のマイナス 118 億ユーロに対し、マイナス 12 億ユーロでした。無形固定資産、土地、工場、設備への投資額は、前年比をわずかに下回り、38 億ユーロでした。事業分離による受取額は前年よりも約 25 億ユーロ増加しました。これは主に、Wintershall と DEA の合併に関連したキャッシュインフローによるものです。買収のための支払額は前年の 74 億ユーロに対し、2 億 39 百万ユーロでした。前年の額にはバイエルからの事業買収に対する多額の支払が含まれていました。

営業活動によるキャッシュフローは大幅に減少したものの、フリー・キャッシュフローは前年の 40 億ユーロに対し、約 37 億ユーロでした。

意欲的なサステナビリティ目標の達成

BASF は、2030 年まで CO₂ 排出量を増やさずことなく成長することを目標としています。具体的には、生産量を増やししながら、BASF 拠点やエネルギー購入からの温室効果ガ

スの合計排出量を 2018 年の水準で維持することを目指しています。2019 年の BASF の温室効果ガス排出の絶対量は前年比 8%減の 2 千万トンでした。これは主に、保守作業などの理由による大規模工場の稼働停止によるものです。また、BASF ではエネルギー供給契約を更新し、エネルギー効率の向上とプロセスの最適化を行うための対策を実施しています。

2020 年の排出量は、定期修繕件数の減少や Solvay からのポリアミド事業の買収などにより、2018 年の水準まで増加すると BASF では予想しています。

3.30 ユーロの配当金を提案

「BASF は毎年、配当金の引き上げを目指しています。予測可能で積極的な配当方針は BASF にとって最優先事項です。BASF は年次株主総会で、1 株当たり 3.30 ユーロの配当を提案する予定です」とブルーダーミュラーは述べています。これは前年度から 0.10 ユーロの増額となります。BASF の株主に総額 30 億ユーロの配当金を支払うことが、年次株主総会で提案される予定です。これは 2019 年のフリー・キャッシュフローで十分まかなえる金額です。これにより BASF は、4.9%の優れた配当利回りを再び提供します。

迅速かつ体系的に戦略を実行

「2019 年は、精力的に情熱をもって、迅速に企業戦略を実行しました。私たちは、組織体制を刷新し、複雑さの解消、管理業務の合理化、そして手順や工程の簡素化に取り組み、新年度をスタートさせています」とブルーダーミュラーは述べています。間接業務の大部分が事業部門に組み込まれ、10 月 1 日までに全世界で 20,000 人の配置転換を行いました。また、コーポレート・センターの社員数は約 1,000 人となり、より効率的な体制となりました。1 月 1 日からは、グローバルビジネスサービスという新ユニットが始動しました。約 8,800 人の社員が所属し、財務、コントローリング、購買、サプライチェーンの分野などで、需要主導型の社内サービスを全世界で提供します。これが BASF の事業の競争力をさらに高めます。

しかし、戦略の実装はまだ完了していません。ブルーダーミュラーは、「主要なステップは既に開始しましたが、今年は細かな部分にも取り組む必要があります」と述べています。

これらの対策はすべて、「お客様中心で、機敏に動ける組織」という明確な目標のもと、利益を伴う BASF の成長を実現するためのものです。

エクセレンスプログラムを加速

BASF は、現在実施中のエクセレンスプログラムを加速させています。ブルーダーミュラーは、「2021 年末までに、目標としている毎年 20 億ユーロの EBITDA への貢献を達成できる見通しです」と述べています。2019 年は約 6 億ユーロの EBITDA への貢献を達成しました。発生した関連費用は約 5 億ユーロでした。今年はさらにプログラムを進めて、13 億～15 億ユーロの EBITDA 増を達成できると見込んでいます。発生する関連臨時費用は、約 3 億～4 億ユーロになると思われます。

BASF は組織の合理化も加速させました。以前、2021 年末までに全世界で 6,000 ポジションを削減することを発表しましたが、この数字は 2020 年末までに達成される見込みです。昨年は 3,100 ポジションを全世界で削減しました。

積極的なポートフォリオ管理

BASF は数多くのポートフォリオ対策を実施してきました。Solvay からのポリアミド事業の買収は 2020 年 1 月 31 日付けで完了しました。同事業の購入価格は 13 億ユーロです。Dr. ハンス - ウルリッヒ・エンゲルは、「BASF は補完的なポートフォリオを提供できるようになりました。地域でのプレゼンスがさらに強化され、供給安定性が向上したことから、今回の買収はお客様にとっても大きなメリットになるでしょう」と述べています。

また、建設化学品事業を 31 億 7 千万ユーロで売却することで、Lone Star(ローン・スター)と合意に達しました。2020 年第 3 四半期に売却を完了する予定です。さらに、全世界の顔料事業が、日本のスペシャリティ企業である DIC に 11 億 5 千万ユーロで売却されます。この取引については 2020 年第 4 四半期に完了する予定です。

さらに、昨年 Wintershall と DEA の合併が完了し、ヨーロッパ有数の独立系探査・生産会社が誕生しました。Wintershall Dea への出資比率は BASF が 72.7%、LetterOne が 27.3 %となっています。

「順調に統合が進んでおり、2020 年 12 月に完了する予定です。2022 年には少なくとも年間 2 億ユーロの相乗効果を見込んでいます。市場条件によるものの、2020 年下半期に新規株式公開を予定しています」とエンゲルは述べています。

バイエルの事業買収は成功

BASF は、アグロソリューション事業セグメントにおけるバイエルからの事業買収を成功と評価しています。エンゲルは次のように述べています。「事業統合は 1 年で完了しました。2019 年はこれらの事業において 22 億ユーロの売上高を達成し、特別項目控除前 EBITDA に 5 億ユーロ以上の貢献がありました。2025 年までには、今回の買収からさらに数億ユーロの売上増を期待しています。目標の達成に向けて順調に進んでいると思います。」

BASF グループの 2020 年の見通し

マーティン・ブルーダーミュラーは、次のように述べています。「今年に入ってから 2 か月で、世界経済は非常に不透明な状況となっています。コロナウイルスも、今年に入ってから 2 か月の成長、特に中国における成長を大幅に妨げる新たな要因となっています。コロナウイルスのさらなる拡大を防ぐために様々な対策が取られ、その結果多くの産業で需要の低下や生産停止が発生しています。」

BASF は、特に 2020 年第 1 四半期と第 2 四半期において、コロナウイルスが世界的に多大なマイナスの影響を及ぼすと予測しています。現時点においては、世界経済に大打撃を与えるようなコロナウイルスの世界的拡散が、今年下半期まで続くことは想定していません。「しかし、コロナウイルスの影響を今年中に完全に埋め合わせることはできないでしょう」とブルーダーミュラーは述べています。

したがって BASF では、世界経済の成長率は 2%と、2019 年(2.6%)よりもさらに緩やかになると予測しています。また、世界の化学品生産の成長率は 1.2%と、2019 年(1.8%)を大幅に下回ると予測しています。これは 2008 年から 2009 年にかけての金融危機以来、群を抜いて最も低い成長率です。

平均ブレント原油価格は、1 バレル 60 ドル、ユーロ/ドルの平均為替レートは 1 ユーロ = 1.15 ドルになると見えています。

「依然として困難な環境が続き、多くの不確実要素があるのは確かですが、BASF は売上高を 600 億から 630 億ユーロの範囲に成長させることを目指します」とブルーダーミュラーは述べました。BASF グループの特別項目控除前営業利益は、42 億から 48 億ユーロ(2019 年は 45 億ユーロ)の範囲に達する見込みです。投下資本利益率(ROCE)は

6.7%から 7.7%(2019 年は 7.7%)になると予想され、資本コスト率の 9%を下回る見込みです。

ブルーダーミュラーは、「顧客産業のほとんどでわずかな成長を見込んでいますが、自動車産業に関しては、生産が引き続き減少するでしょう」と述べています。BASF の 2020 年の見通しでは、米国と貿易相手国の貿易摩擦がこれ以上軽減されることはないが、英国の EU 離脱が移行期において今以上の経済的影響をもたらすこともないと予測しています。

有機的成長に対する投資

ブルーダーミュラーは、将来的な投資の見通しにも言及しました。BASF は今後 5 年で、236 億ユーロの資本的支出を予定しています。この 3 分の 1 以上が、2020 年から 2024 年にかけて成長重視分野、つまり中国・広東省のフェアブント拠点とインド・ムンドラにおける化学コンプレックスという、アジアにおける大規模な 2 つのプロジェクトと、バッテリー材料事業に割り当てられます。

ブルーダーミュラーは、「これは特に、地域重視の変化を示しています。今後 5 年で、当社の投資の 41%をアジア太平洋地域に、34%を欧州に割り当てる予定です」と述べました。2019 年から 2023 年にかけての計画段階における投資の割り当ては、アジア太平洋地域に 27%、欧州に 43%とされていました。2020 年には、合計 34 億ユーロ(2019 年は 33 億ユーロ)の資本的支出(買収、IT 投資、リースに関連する原状回復義務および使用権を除いた不動産、工場、設備の拡充)を予定しています。

留意事項:

2019 年 12 月 21 日、BASF の建設化学品事業の譲渡譲受契約を Lone Star と締結しました。これにより、BASF グループの財務報告に即時の影響が生じます。建設化学品事業本部の売上高および利益は、遡及的に 2019 年 1 月 1 日以降の BASF グループの売上高、EBITDA、EBIT および特別項目控除前営業利益に含まれなくなり、過年度の数値は調整されます。事業譲渡が完了するまでは、当該事業からの利益は BASF グループの税引後利益のうちの「非継続事業からの税引後利益」として区分表示されません。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で117,000人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2019年のBASFの売上高は590億ユーロでした。BASF株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細情報は、<http://www.basf.com>をご覧ください。

■将来の予測に関する記述について

本リリースにはBASF経営陣による現時点での推測および予測、ならびに現在入手可能な情報に基づく「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらはここに記す将来の進展や業績を保証するものではなく、多くの要因に依存し、様々なリスクと不確実性を含んでいるほか、正確とは限らない仮定に基づいています。本リリースに記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASFは更新の義務を負いません。